

田植え後の高温・多照で異常還元(ワキ)の急激な進行が懸念されます。
除草剤散布前に水交換。散布1週間後に状況によって田干し！

1 移植後のきめ細かな水管理で分けつ促進

○移植後【稲体の保護、新根の発生促進】

・活着するまで水深4～5cm程度の湛水とします。

○活着後【地温を高めるとともに、昼夜の温度較差をつけて分けつの発生促進】

・水深2～3cmの浅水管理とし、日中止水・夜間入水とします。

・活着後の生育状況を確認し、「ワキ」対策含め適正な水管理で初期茎数の確保に努めましょう。

○強風や低温が続くときは、やや深めの水深(4～5cm程度)としましょう。【苗の保護】

2 土壌の異常還元(ワキ)を予防する水管理で、初期生育を促進

湛水条件では土壌還元が徐々に進行します。特に、高温・多照の日が続くとワキが強まり、根の生育が阻害され、分けつの発生が抑制されます。下記の予防・対策を積極的に行い、生育を促進しましょう。

○予防策：一発処理除草剤散布前の軽い田干しや水交換

一発処理除草剤散布後は、少なくとも7日間湛水状態を保つ必要がありますが、その間にも「ワキ」は進みます。そのため、一発処理除草剤散布前に「ワキ」を予防するため、軽い田干し(1～2日落水)や水交換を行いましょう。

○分けつ期における対策：「ワキ」の程度に応じた水管理

「ワキ」の悪影響を回避するには、稲に異常が見え始める前の“早目の対策”が重要です。

田んぼに足を踏み込んで気泡の発生状況を確認し(表)、「ワキ」の程度に応じて「水交換」、「夜間落水」、「田干し(2～3日程度)」で対応しましょう。

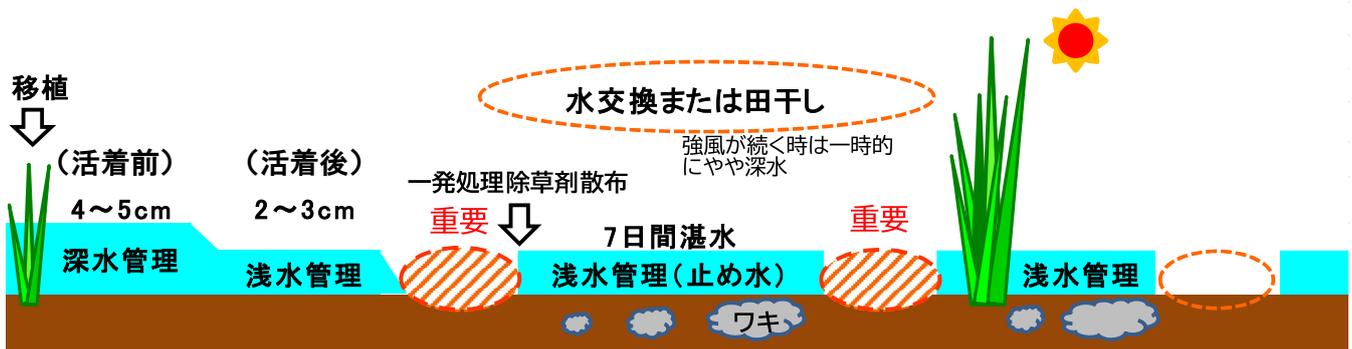


図 移植後の水管理

表 土壌還元(ワキ)の程度と対策

ワキの程度の目安	生育への影響	生育初期の対策
水田に足を踏み込むとわずかに気泡の発生がみられる	なし	—
水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	速やかな水交換
水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する	根張り不良	田干し、夜間落水

はえぬき食味向上 ワンポイント

- ・葉色が薄い、分けつが増えない場合は、まずは水交換を！
- ・安易な追肥は、食味を低下させる要因です！

3 効果的な除草剤の施用～ポイントは「散布時期」と「水管理」～

- 今年は、田植え後の好天によってノビエの生育が早まり、多発することが予想されます。薬剤毎の使用基準を確認し、使用時期の範囲内で「やや早め」に散布しましょう。
- 除草剤の効果を十分発揮させるためには水管理が重要で、ネズミ穴などによって畦畔からの漏水が無いかわず確認し、かけ流しにならないよう注意しましょう。
- 散布時の水深は、剤型に応じた水深を確保しましょう。
 - ☑粒剤、フロアブル剤:3～5cm
 - ☑ジャンボ剤、豆つぶ剤:5～6cm
- 除草剤散布後1週間は、水尻を止め、必ず“止め水”とします。減水深が大きく2日以上田面が出る場合、除草剤の処理層を壊さないよう“ゆっくり”入水します。

4 農薬だけに頼らない病虫害対策を

- いもち病対策
 - ☑いもち病の初発は取置き苗由来となることが多いので、補植終了後は、取置き苗を速やかに処分しましょう。
- 斑点米カメムシ類対策～雑草対策の徹底が基本！～
 - ☑農道・畦畔等の除草により、斑点米カメムシ類が生息しにくい環境をつくりましょう。
 - ☑アカスジカスミカメはイヌホタルイ等のカヤツリグサ科植物やノビエの穂に産卵するため、水田内にこれらの雑草が繁茂していると多発します。除草剤を適切に使用し除草対策を徹底しましょう。

補植終了後は
直ちに処分！



取置き苗

「スマートつや姫」を使ってみよう！

機能:①食味・収量点検マップ、②作業適期・生育予測、③穂肥診断マップ、④刈取適期診断マップ
問い合わせは最寄りのJAまたは農業技術普及課へ

STOP ! 農作業事故

春季農作業事故防止運動 4/1～6/10

農機始業前点検

トラクターの転倒・転落防止

※ 熱中症対策をして、農作業を！